

何があっても誠実であれ
(人生が不公正に見える時にさえ)
(ダニエル書6章)

導入

「ちゃんとした人間としてちゃんと生きようとしているのに、どうしてこんなことが起こるのだろう。」

そんなふうを感じたことがある、または今ちょうどそう感じているという人はいますか。きっと、クリスチャンであってもなくても、誰もが今までに一度はこう感じたことがあるでしょう。クリスチャンなら、こう思ったかもしれません。

「神さまを大切に生きていますつもりなのに、なぜ神さまはこんなことが起こるのを許されたのだろう。」

しかし、どれほど神に忠実な人でも、厳しい現実と向き合わなくてよいわけではありません。

このことは、旧約聖書のダニエル書にはっきりと示されています。

ダニエル書に登場する話は、日曜学校で教えることもあるので、多くの人たちに親しまれています。神を忠実に礼拝した3人のユダヤ人が燃える炉に投げ込まれた話や、ダニエルが獅子の穴に放り込まれた話を知っている人は多いでしょう。

3章には、ダニエルの3人の友人、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴが登場します。

3人は、神を畏れる忠実な若者で、王に仕える誠実な働き者でした。

しかし、彼らの神に対する誠実さは、燃え盛る炉に投げ込まれるというかたちで報われました。それは、彼らが金の像を拝むことを拒んだからです。

王が立てた金の像を拝むようにと最後に命じられたときの3人の言葉は、とても有名です。

「私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。しかし、もしそうでなくても、…私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません。」

王はこれを聞いて憤慨し、燃え盛る炉に彼らを投げ込ませました。

けれども、主は彼らの信仰を重んじてくださいました。彼らは、偶像礼拝の罪を犯さず、信仰のために死ぬこともいとわなかったからです。神は炉の中に現れてくださり、炎から彼らを守ってくださいました。

ダニエル書6章で、ダニエルもまた神に忠実でありつづけたことで同じような扱いを受けます。

ダニエルは、お腹を空かせた獅子の穴に投げ込まれます。この話もまた、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの話と同じように良く知られています。

どちらの話も、試練、喪失体験、悲しみや苦しみの中で神がともにいてくださることを教えてください。

そして、そのときはよいことなど一切ないと思える出来事から、何らかの善をもたらすことができるのが私たちの神であることも教えてください。

1. ダニエルの試練の背景

聖書をお持ちの方は、ダニエル書6章1-3節を開いてください。ダニエルの人生に起こったことをたどっていきましょう。

このとき、ダニエルはすでに80歳代でした。

人生の65年以上を、忠実を尽くして神に仕えつつ、バビロンの王たちに誠実に仕えていました。

当時、ダリヨスが統治者でした。ダニエルは、ネブカデネザル王やベルシャツアル王に仕えたように、政府の高官として忠実にダリヨス王に仕えていました。

¹ ダリヨスは全国を治めるために、その国に百二十人の総督を立てることをよしとし、² また彼

らの上に三人の総監を立てた。ダニエルはそのひとりであった。これは総督たちをして、この三人の前に、その職務に関する報告をさせて、王に損失の及ぶことのないようにするためであった。

ダニエルは彼のうちにあるすぐれた霊のゆえに、他のすべての総監および総督たちにまさっていたので、王は彼を立てて全国を治めさせようとした。

ダリヨス王の治世が始まってまもなく、ダニエルが他の総監や総督よりもすぐれた行政官であったことは明らかとなりました。

聖書は、ダニエルに「すぐれた霊」があったと語ります。これはおそらく、ダニエルの知恵や正直さ、労働倫理などを指しているのでしょう。

その結果、王はダニエルを国の2番目の権力者として立て、全国を治めさせようとした。

ここで、神の栄光と誉れを求めて生きる人生が優れた人生であることが分かります。

暗やみに支配される異教の国で、ダニエルの生き方は光輝き、神を力強く証します。

II. ダニエルは敵たちの罠に陥る

A. 他の総監はダニエルのことをねたむ。

⁴ そこで総監および総督らは、国事についてダニエルを訴えるべき口実を得ようとしたが、訴えるべきなんの口実も、なんのとがをも見いだすことができなかった。それは彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかったからである。

他の行政官たちは、ダリヨス王がダニエルを昇進させようとしていると聞き、妬みました。

ダニエルのような人の監督下では、自分たちの権力をふるって私利私欲を満たすことができなくなると彼らが考えたであろうことは容易に想像がつきます。

ダニエルは、王に忠実を尽くしており、怠慢や腐敗とは無関係の人でした。

B. そのため、ダニエルに対する陰謀を企てる

しかし5節で、他の行政官たちはダニエルに不利な状況を作れる材料を見つけます。

⁵ そこでその人々は言った、「われわれはダニエルの神の律法に関して、彼を訴える口実を得るのでなければ、ついに彼を訴えることはできまい」と。

彼らが唯一見つけたものは、ダニエルの神に対する忠実さです。これを悪用するのです。

ダニエルが他の人たちと違っていた点は、日常生活で神を重んじていたことです。そのようにしていない他の人たちとの違いは、明らかでした。

私たちはどうでしょう。もし誰かが私たちの職場や家庭での過ごし方、お金の使い方、人間関係、インターネットで何を閲覧しているかなどをくまなく調べたらどうなるでしょう。

「この人は、すべてにおいて神を重んじている」とか「この人は、すべてにおいて神を喜ばせようとしている」と言われるのでしょうか。

これは、考えてみるべきことです。

この章から学ぶ最初の理念は、次のとおりです。

神様をあがめる人々は、神様のために輝き、神様に栄光をもたらす。

ピリピ2:15は次のように語ります。「とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝くように。」
(新共同訳)

日常生活で神を重んじる人は、私たちの生きる罪深い暗闇の世界では際立つ存在となります。ダニエルの人生は、それが真実であることを示します。

では、聖書箇所に戻りましょう。

聖書は、総監や総督たちが相談して王のもとに行き、次のように話したと語ります。

⁶ こうして総監と総督らは、王のもとに集まってきて、王に言った、「ダリヨス王よ、どうかとこしえに生きながらえられますように。⁷ 国の総監、長官および総督、参議および知事らは [みな]、王が一つのおきてを立て、一つの禁令を定められるよう求めることになりました。…すなわち今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ、もしあなたをおいて、神または人にこれをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れるというのです。

⁸ 王よ。今、その禁令を制定し、変更されることのないようにその文書に署名し、取り消しのできないメディアとペルシヤの法律のようになしてください。」

こうして、行政官たちは王をおだてて、王を言わば「今月の神さま」に仕立てる法令を出すように提案します。

そして、この法令に背く者は処刑されるようにとも提案します。

けれども、7節にある彼らの主張はおかしいと思いませんか。

総監、長官、総督、参議と知事が本当に全員で話し合ったのでしょうか。

彼らは、ひとりだけ話し合いに入れていないはずですが。ダニエルは同意していません。

王はすっかりプライドをくすぐられ、自分の前に立って提案をしている人たちの中に、一番の高官がいないことに気づかなかったようです。

ダリヨス王は、その禁令の文書に署名した 取り消しのできない法律になった

この章から学ぶふたつめの理念は、次のとおりです。

神様をあがめる生活を送っていても、人生の中で不公正な目に合わないわけではない。

ダニエルを特別な存在とした行為、つまり神に祈りをささげ、神を礼拝する行為のために、彼は処刑されようとしていました。なんとも不当なことです。

けれども、人生は公平ではないということを私たちは忘れてはいけません。

人生は公平ではありません。神も人生が公平だとは約束しておられません。

しかし神は、私たちが不当で不公平だと思う事柄を用いることができになります。私たちが神を信頼してゆだねるなら、私たちの人生においても、周囲の人々の人生においても、その事柄を神の栄光と誉れのために用いてくださいます。

C. ダリヨス王のおきてに対するダニエルの反応

こうして、ダニエルに対する罠が仕掛けられました。敵たちは、ダニエルが神に祈りをささげている現場を押さえるチャンスを狙っています。

ダニエルは、その文書の署名されたことを知って家に帰り、二階のへやの、エルサレムに向かって窓の開かれた所に行きました。

聖書には、ダニエルがしたことが記されています。

以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝し

た。

王の出した禁令によって、ダニエルに眠れなくなったり、悩んだりといった様子はありません。彼は65年以上前に、神の子として受けた至高の召しに応えると決心していました。ダニエルは、神の助けを得ながら、すべての言動において神に栄光と誉れをもたらす生き方をしようとしていました。ですから、王の禁令について聞いたときも、どうしようかと祈ったり考えたりする必要はありませんでした。その禁令が署名された事実がなかったかのように日常を過ごし、いつものように祈りました。

D. ダニエルの敵は、祈っている最中のダニエルを見つける。

そして、どうなったでしょう。11-13節には、ダニエルが予想通り神に祈りをささげる姿を敵たちが見つけたとあります。そして、ダニエルのことを王に告げ口します。

¹³ 「王よ、ユダから引いてきた捕囚のひとりである、ダニエルは、あなたをも、あなたの署名された禁令をも顧みず、一日に三度ずつ、祈をささげています。」

E. ダニエルが捕まったことに対するダリヨス王の反応

その後を読む前に、ダニエルが王の禁令に従わなかったことを聞いて、ダリヨス王がどう反応したか考えてみてください。一か月間王以外のものを神としてあがめてはいけないという行政官たちの提案に喜んで賛成したプライドの高い王は、どうするでしょう。3章でシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴが金の像を拜むことを拒んだ時のネブカデネザル王のように、さぞ憤慨したと思うでしょう。しかし、ダリヨスの反応はまったくそうではありませんでした。

14節には、王が心を悩ませ、ダニエルをどうにか助ける方法はないかと一日中考えたとあります。ダリヨス王は悲しみました。そして、あのような禁令に署名させるために行政官たちが王を欺いたことに気づきました。もしかすると、このようなことが起こったのは自分のプライドのせいだと悟って苦しんでいたのかもしれない。いずれにせよ、ダリヨス王がダニエルを非常に気にかけていたことは明らかです。部下としてだけでなく、おそらく友として心配していたのでしょう。だから、14節には、「ダニエルを救おうと決心し、日暮れまで彼を助けようと努めた」とあるのです。けれども、王自身が出した禁令のような法令は、いかなる理由であっても無効にすることはできません。もう何も手立てはありません。日暮れ時になって、ダニエルを告発した人々が禁令で定められた処刑を実施するよう王に催促すると、ダリヨス王は不本意ながらすべきことをしました。

F. ダニエルは獅子の穴に投げ込まれる。

16節には、ダニエルが獅子の穴に投げ込まれたとあります。けれども、穴の口がふさがれる前に、王が驚くべき言葉をダニエルにかけます。

「ダニエル。どうか、あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように。」

考えてみてください。

異教徒の王であるダリヨスが、聖書の神に誰よりも忠実に歩む人を励ましているのです。神が守ってくださるから安心しなさいと。

ダリヨス王に仕えたダニエルは、神への忠実さをしっかりと証していました。

ダリヨス王は、ダニエルがどこかの神を信じていると知っていただけではありません。ダニエルの神が、信じる者に対して力と真実を施してくださる神であることも知っていました。

ダニエルという人が今あるのは、神のおかげであり、神に対するダニエルの忠実さの賜物であると王はわかっていたのです。

ここで、神の栄光のために生きようとする私たちが心に留めておくべき原則の3つめは、次のとおりです。

あなた個人の生き方がもたらす影響力を、決して小さく評価してはならない。

自分の生き方は、家族や同僚、学校の友だちには何の影響も与えられないと考えてしまったことはありませんか。

私はそう考えたことがあります。ここにいるクリスチャンの皆さんも、そう考えたことがあるでしょう。

そう思った時、私たちはガラテヤ6章9節のパウロのことばを思い出さなければなりません。

たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。
(新共同訳)

神とともに歩み、人生で神を大切にしようとしていれば、私たちの生き方はすでに違いを生んでいます。

周囲の人はそれを口に出して言わなくても、私たちのことを見ています。

そして、見聞きしたことに心を動かされる人も出てくるでしょう。もしかすると、いつかイエスを信じるようになる人もいるかもしれません。

もちろん、そうなるという保証はありません。悔い改めの決心は、神とその人との間のことですから。

けれども、私たちが主とともに謙虚で忠実な歩みをしていれば、神は私たちの人生を用いてくださいます。そして、イエスの愛と力を示す私たちの証を用いてくださいます。

これこそ、ダニエルの忠実な生き方がダリヨス王のうちに成した働きです。

そして一つの石を持ってきて、穴の口をふさいだので、王は自分の印と、大臣らの印をもって、これに封印した。

ダニエルの敵たちは、ライバルが始末されると喜んでその様子を眺めていたことでしょう。

ここで皆さんに注目していただきたい点があります。それは、ダニエルが獅子の穴に放り込まれるのを神が未然に防がれなかったことです。

6章の初めからここまでで、神はダニエルの敵たちの企てを妨げておられません。

また、ダニエルが獅子の穴に放り込まれないために、この状況に介入して助け出すこともなさいませんでした。

また、6章を読む中で、すべてはうまくいくから大丈夫だと神がダニエルに語りかけられたことを示す内容はまったくありません。

ただ神に忠実を尽くしただけで、何も悪いことをしていないダニエルは、このような不当な扱いを受けましたが、神にも王にも文句を言わなかったようです。

そして、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴのように、神が助け出してくださるという約束もいただけていませんでした。

現代のクリスチャンにおいても、これは同じです。

私たちが主とともに忠実に歩んでも、つらい試練を神がお許しになることがあります。そして、そ

のような試練から神が救い出してくださるという明確な約束も与えられません。けれども、私たちはいくつかのことを覚えておかなければなりません。まず、たいいていの場合、試練は私たちの罪の結果ではないことです。次に、試練は決して、神が私たちに真実でいてくださらないしるしではありません。むしろ、試練は神のお働きの終わりではなく始まりのしるしと言えます。私たちは、望まない問題や悲しみ、失敗などに直面すると、感情的には、神に失望させられた、とか、神が私たちのために働いておられない、と誤ってしまいがちです。もし神がちゃんと働いておられたら、悲しい出来事や事故などから守ってくださったはずだと考えるのです。良い時には神の愛や御手の働きを感じますが、良くない時には神を信じられなくなります。しかし、みことばでも、私たちの人生においても、多くの場合、人の人生に神が関わるきっかけをもたらすのは試練であるということがわかると思います。試練のときにこそ、私たちは自己満足やなまぬるいクリスチャン生活から目覚めて、真剣に主を求め始めます。ということは、試練のときこそ、私たちの人生や周囲の人たちの人生に神が働かれるのを見られるチャンスなのです。

G. ダリヨス王は、一晩中寝られない。

では、聖書箇所に戻りましょう。

18節で、王は一晩中断食し、そばめも寄せ付けませんでした。

おそらく、傲慢で愚かだった自分を責めていたのでしょう。よこしまな行政官たちにおだてられ、愚かな法令を發布してしまったために、友と思える人物を獅子の穴に投げ込むはめになったのです。王はダニエルのことが心配で、一睡もできませんでした。ダニエルのことで神に祈っていた可能性があると思います。

聖書は、夜が明けるとすぐにダリヨス王が獅子の穴のところに急いでいって、ダニエルの安否を確認したと語ります。

III. ダニエルは神さまによって守られる。

A. ダリヨスは、朝にダニエルが無事だとわかる。

王は、石をどけさせ、ひざまずき、悲痛な声でダニエルに呼びかけました。

²⁰ 「生ける神のしもべダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか。」

すると、王の耳に心地よい声が聞こえました。

²¹ 「王よ、どうか、とこしえに生きながらえられますように。私の神はその使いをおくって、ししの口を閉ざされたので、ししは私を害しませんでした。」

ダニエルの声が暗い穴から聞こえたとき、ダリヨス王はどれほど安心したことでしょう。23節は語ります。

²³ ダリヨスは非常に喜び、ダニエルをその穴から出せと命じた。ダニエルは穴から出されたが、彼に何の傷も認められなかった。彼が神に信頼していたからである。

シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、炉に投げ込まれた後、まったく無傷でネブカデネザル王

の前に立ちました。ダニエルも同じく、まったくの無傷でダリヨス王の前に立ちました。

B. ダリヨスは、ダニエルの敵を罰し、神さまをほめたたえる

ダリヨス王は、ダニエルの身の安全を確保しました。

そして、王を欺き、ダニエルを獅子の穴に放り込んで殺そうとしたよこしまな行政官たちを処罰しました。

聖書は、彼らが穴の底に落ちないうちに獅子が彼らを食い裂いたと語ります。

6章は、2-4章と同じように、異教徒の王が生けるまことの神を賛美する場面で終わります。

²⁵ そのとき、ダリヨス王は、全土に住むすべての諸民、諸国、諸国語の者たちに次のように書き送った。「あなたがたに平安が豊かにあるように。²⁶ 私は命令する。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。この方こそ生ける神。永遠に堅く立つ方。

その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。

²⁷ この方は人を救って解放し、天においても、地においてもしるしと奇蹟を行い、獅子の力からダニエルを救い出された。」

C. 神さまはダニエルを祝福してくださる。

6章は次のことばで締めくくられています。

²⁸ このダニエルは、ダリヨスの治世とペルシヤ人クロスの治世に栄えた。

まとめ

しかし、6章の主題はダニエルでもダニエルの成功でもないと思います。

6章は、ダリヨス王が法令を發布する場面で始まり、同じように法令を發布する場面で終わります。

しかし、そのふたつの内容はまったく正反対です。

神は、ダリヨス王の心と考え方を大きく変えてくださいました。それは、ダニエルが自分の身にどんなことが起こっても神に忠実でありつづけたからです。

その60年以上前、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴが、ネブカデネザル王の人生に大きな影響を与えるために用いられたのと同じです。

これが、6章のテーマだと私は思います。

神は、イエス・キリストを信じる信仰によって神の子とされた人々を用いて、私たちの周囲の人たちに影響を与えようとしておられます。

神は、ご自身が私たちの人生に起こることを許される試練に目的をもっておられます。

最後の原則は、次のとおりです。

神様の御手の中で起こる試練は、神様が用いられる手段となり得る。

神さまは私たちが経験する試練を用いて、私たちの人生においてだけでなく、私たちの周りにいる人たちの人生の中で、ご自身の永遠の目的を果たすことができになります。

私たちの思うように物事が進まないとき、神は私たちが神の愛と善を疑わずに信頼することを望まれます。

つらいときに、私たちが神に心から願うなら、神は恵みと力とさらなる信仰を与えて、乗り越えさせてくださいます。

イエスに従うすべての人が考えなければならない問いは次のとおりです。

どれほど試練が厳しくつらくても、他の人達も神様を知り、愛するようになる助けとなれるよ

うに、私はすすんで神様に自分を用いていただくだらうか？

皆さん、いつか私たちは主の御前に立ちます。そのとき、この世の苦しみは一切頭をよぎらないでしょう。

「周りを見てみなさい。あなたをとおしてわたしが輝けたおかげでここにいる人たちを」と主がおっしゃるとき、私たちが経験した苦しみ、痛み、喪失、犠牲は、何でもなくなるでしょう。

ダニエル6章から、神が私たちの生死を支配しておられることがわかります。私たちの今日も明日も神の御手の中にあるのです。

私たちが試練の中でも神を信頼することを、神は望んでおられます。

どんな結果になったとしても、神はすべてを支配しておられます。

私たちの祈り求めた結果が得られるときも、そうでないときもあるでしょう。

いずれにせよ、神はすべてを支配しておられます。

祈りましょう。

天の父なる神さま、生きることがつらいときや、不公平だと感じる時があります。あなたを大切に生きて生きようとしていてもそうです。

私たちがあなたの子であっても、私たちも周囲の人たちも、つらいことや悲しいこと、悲惨な出来事に遭います。

けれども、あなたに感謝します。あなたが決して私たちをお見捨てにならないからです。つらいときはその困難な日々をともに歩んでくださるからです。

主よ、私たちもダニエルのように、何があってもあなたに忠実でいられるように助けてください。

私たちをとおして、あなたの光と真理を輝かせてください。私たちの周りの人たちが、あなたに出会うまであなたを求めることができるように助けてください。

これらのことを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。